



最期はどこで迎えたいか？ その人らしく最期を迎えてほしい…

Mさんは、81歳。今年の1月に癌が見つかり、手術をする。リハビリ目的にて病院を転々とし、7月下旬に退院し、在宅療養生活となる。一人暮らしのため、訪問介護やデイサービス、訪問看護を利用していたが、食事や水分を摂ることが困難となり、急遽介護老人保健施設に入所することになる。入所中に癌が悪化したのか、血圧の低下等で病院に緊急搬送されるが、病状が落ち着き、施設に戻ると施設側から「看取りの施設ではないから退所してほしい」と言われてしまう。娘はとまどい、『ケアホーム希望』を紹介され、見学に来た時には泣きながら説明を聞いていた。「人として、自然なかたちで最期を迎えさせてあげたい。病院嫌いの母を入院させ、管だらけにして抑制させたくない」と…。

『ケアホーム希望』の利用を決め、介護老人保健施設を退所した。「泊まり」のサービスを開始すると、職員と昔話をしたり、好きな餃子やうどん、アイスクリームを食べたりして笑顔も見られるようになった。全身状態は悪いものの、意欲もあり、家族もホッとした矢先、利用開始して3日目の夜に穏やかに、そして眠るように息を引き取った。

家族からは「3日間であったが、母らしい最期を迎えられて感謝しています」と。

介護老人保健施設は、病院から自宅に戻るためのリハビリが中心の施設である。また、特別養護老人ホームも病状が悪化すると入院することになり、その後、戻れなく長期療養型病院等へ転移するケースも多い。

なかなか最期の看取りまで行うことのできる施設が少ないのが現状である。

その理由の一つに、人材不足があげられる。施設は造ったが人材が不足しており、利用者を受入れられないということである。人材不足問題は、介護職員の賃金が低いことにも問題があるのではないだろうか？

最期を住み慣れた家で迎えたいが、高齢夫婦のみ世帯の老々介護だったりすると、在宅で看取りをすることは難しい。そんな時、どうすれば解決できるだろうか？

『ケアホーム希望』のような看護小規模多機能型居宅介護サービスがもっと増えれば、自然な形で、その人らしく最期を迎えられるのではないかと思う。国はこの看護小規模多機能型居宅介護サービスを増やしていこうとしているが、調布市にはこのサービスが『ケアホーム希望』の1ヶ所しかないのが残念である。



Mさんの娘さんから お手紙をいただきました…

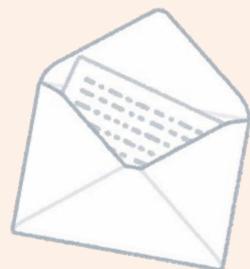
ケアホーム希望の皆さまへ

とても短い間でしたが大変お世話になり、ありがとうございました。

母も私たち家族もご縁があり、こちらを利用することができたこと本当に幸せに思います。

そして優しく接してくださった職員の皆様に深く感謝申し上げます。

家族一同



今年も 緑ヶ丘の自治会 秋祭りに行ってきました！



お兄さん
どう 叩けば
いいの？

??
“いちゃりば ちょーでー”
って 何て意味？

いちゃりば
ちょーでー！

沖縄 エイサー
サイコー

沖縄の言葉で
『一度会ったら皆兄弟』
という 意味だよ

